青研かわらばん

発行所　長岡鉄工業青年研究会
発行責任者　山本友紀
編集責任者　髙坂壮
編集者　永井邦幸・池田一雄　清水一裕・鈴木敬子　長谷川孝・南聡史
事務局　新潟県長岡市坂之上町２丁目１番１号　長岡商工会議所ビル５Ｆ　長岡鉄工業青年研究会　TEL 0258－36－6982
印刷所　㈱北越時報社　長岡市住吉２丁目５番13号

新年度を迎えて

長岡鉄工業青年研究会
二〇二〇年度会長　五十嵐敏

日頃より当会の活動にご理解とご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。

この度、二〇二〇年度長岡鉄工業青年研究会第四十九代会長を務めさせていただく事となりました、五十嵐工業株式会社の五十嵐敏です。一年間よろしくお願い申し上げます。

歴史ある当会の会長を務めさせていただくに当たり、その責任の重さをひしひしと感じて止みません。しかしそれと同時に、これまで支えていただいた現役会員、並びにＯＢ会員の皆様への恩返し、そして地域への貢献やものづくりの魅力を広める絶好の機会を頂いた事に感謝申し上げます。その感謝の気持ちを少しでも体現できるよう精一杯努めてまいります。

平成が終わり、令和の時代が始まりました。改めて振り返りますと、平成はその名の通り戦争のない平和な三十年でしたが、国内外ともに非常に変化の大きい時代であったと思います。

国内ではバブル崩壊後、経済の低迷が長く続きましたが、第二次安倍政権が発足して、私たちはようやく経済再生の足掛かりを掴むことに成功しました。その後、今日に至るまで、緩やかながらも安定的な経済成長を実現してきたところです。

そんな中、世界全体を席巻しつつあるデジタル化の急速な進展により、私たちの暮らしを支える社会や文化の基盤そのものが劇的に変化しております。その変化に対し最も影響を受けるのがビジネスであり、企業は生き残るために、過去に捉われない大胆な発想と対応が不可欠になっております。

当会もこうした変化を真正面から受け止め、対峙できる『進化』した人材を育成してまいります。

一．人材育成

現在日本国内はあらゆる業界で人手不足となっております。二〇三〇年には約一千万人の労働力が不足すると言われております。そんな厳しい環境下で企業が成長を維持するには、社内人材の能力向上を通じて、生産性向上を図るのが最も現実的な施策です。当会も積極的に事業を展開し、「どう考えたらよいか」・「どのように行動すべきか」を考え、共に学び判断力や行動力の向上、さらには環境変化に対応できる先見性・リーダーシップ・変革意識を身に付ける場となるよう活動してまいります。

二．地域貢献事業・交流事業・渉外事業

本年度も地域貢献事業として、八月一日に行われる「長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御」に代々受け継ぐオリジナル神輿と纏で参加し、地域の皆様へ当会のアピールをしてまいります。また九月にはＯＢの皆様や会員企業ご協力のもとに行われる「屑鉄集め」を継続して行います。この二つの事業を実施する際にはご理解・ご協力のよろしくお願い申し上げます。

交流事業として、九月に柏崎、小千谷の若手団体と共に、情報交換や技術の向上を目的とした「三団体交流イベント」を計画しております。

渉外事業として、今年度は新たに長岡大学様主催のプラレールイベントに参加し、一人でも多くの方たちにものづくりへの興味や関心を持ってもらえるような多世代交流事業を計画しております。

三．会員増加への取組

二〇一九年度は三十六名が在籍しており、二〇二〇年度は二十九名にまで減少し、さらに翌年には二十名弱にまで減少します。会存亡の危機に立たされているということを会員一人一人が真摯に受け止め、積極的に勧誘活動を実施してまいります。常日頃より当会の活動にご理解いただいているＯＢの皆様へ、会社の将来を担う人材を紹介していただく事や、関連企業へ当会の活動内容・入会に際しどのようなメリットがあるのかを伝えた上で、自身の成長に役立つ場である事を理解していただき入会に繋げるなどして、新規会員の獲得に取組んでまいります。

以上の事業や取組を中心として当会を運営してまいります。現役会員の皆様には改めて、会の目指す方向性を理解し、一人一人が目的をもって活動をする中で、自身の成長に役立つ場であることを再認識していただき、積極的に事業へ参加お願いいたします。

一年間、何卒よろしくお願い申し上げます。

一年を振り返って

長岡鉄工業青年研究会
二〇一九年度会長
山本　友紀

二〇一九年度会長を務めさせていただいた株式会社山本製作所の山本友紀でございます。二〇一九年度は平成から令和へと時代が移り変わる初年度となりました。自分自身、大きな不安と、小さな期待を抱えながらの船出となりましたが、当会の運営と真摯に向き合い、与えられた職責を全うしてまいりました。

思い起こせば八年前、鉄工業界の右も左もわからない私は、鉄工青研と言う組織の中で様々な出会い、経験を通じて己を高め、そしてついには歴史と伝統ある当会の会長と言う役職を与えていただくまでになることができました。これもひとえに現役会員やＯＢ会員の皆様、関連機関の皆様のお力添えの賜物と拝謝いたします。

鉄工青研の一番の強みは企業に不可欠な要素を模擬形式的に経験できる事にあると思います。事業を展開する上での計画書の作成に始まり、役員会での計画案の上程、事前準備、事業の運営、事業報告、と言う一連の過程を経て業務を遂行します。また、執行部である役員に選出された後には総会や会議の所作を学ぶことができ、より実践的でかつ実用的なスキルを身に付けることも可能です。企業での失敗は許されないが、青研なら問題ない、だからこそ思い切って進めてほしい、偉大な先輩方からそう教えられ、私は当会に育てていただきました。

私自身、同時期に入会した方々が次々と役員登用される中、悔しい思いをしました。しかしながら、今思えば「役員になったら頑張ろう」と思っていたのだと思います。ですがそれでは機会は回ってきません。「頑張っているから役員になれる」そういう人材に機会が回ってくるのだと思います。

昨今の長岡鉄工業青年研究会は会員数の減少がより顕著な問題となってきておりますが、言い換えればこれはチャンスと捉えることができます。会員数の少ない今だからこそ積極的に活動に向き合っていれば自ずと機会が巡ってくることになるのです。これからの私の役目は広い視野で人材や物事を注視して、多くの人材を育て、当会の発展と規模拡大に尽力する事だと思っております。

二〇二〇年度は翌年に控えた当会設立五十周年へ向けた準備事業が佳境を迎える大事な一年となります。五十嵐会長を中心により一層の士気を高め、思いを未来へと紡いでいただきたいと思います。

結びとなりますが、多大なるご協力を頂いた関連各機関、ＯＢ会員の皆様、そして私を支えてくださった会員の皆様に改めて心より感謝申し上げます。一年間、ありがとうございました。

委員会事業報告

総務委員会

委員長　髙坂　壮

二〇一九年度総務委員会では、会の方針・意思決定の場である会議の円滑な運営と、総会・新年会・卒業式等の定型事業の正確な設営・進行を行い、組織を支える土台としての役割を果たすべく運営してまいりました。

本年度の納涼会では、例年とは趣向を変え、会員家族を交えたファミリーバーベキューを開催いたしました。総務委員会としては初の試みとなりましたが、無事に事業を行う事が出来、次年度以降へ繋がる取り組みになったと思います。

委員長としては、まだまだ経験不足を感じた一年間ではありましたが、優秀な委員に恵まれ、過分なるサポートを受け、各事業を全うする事が出来ました。本年度会長の掲げる「全足前進」を体現した委員会であったと思います。

最後に会員の皆様には経験の浅い私を温かく見守っていただき、また多大なるご支援をいただきまして誠にありがとうございました。一年を通し、自身にとって貴重な経験を得る事が出来きました事、感謝申し上げます。

◆卒業式

平成三十一年四月十三日㈯、かも川別館にて、平成最後となる卒業生の八名の方の卒業式が行われました。当日は柿川沿いを満開の桜が彩り、卒業生の新たな門出を文字通り華やかに送り出す事が出来たものと思います。また懇親会から、その後の謝恩会まで、多くの現役会員が卒業生を囲み大いに盛り上がることができました。現役会員から卒業される会員の皆様に感謝を表すと共に華々しく送り出すことができたのではないかと思います。

御来賓　中越鋳物青年研究会
　松　田　勇　介　様
御卒業会員　六名
　加　藤　芳　夫　さん
　酒　井　孝　幸　さん

高木繁樹さん
富川和則さん
萩野浩さん
皆川政男さん
会員　三十三名　（合計四十名）
（髙坂　壮）

◆納涼会

令和元年九月二十八日㈯に与板★中川清兵衛記念ＢＢＱビール園にて納涼会兼・ファミリーイベントとして会員家族を交えて開催しました。余興としてソロシンガーの方にお越しいただきライブパフォーマンスにて、イベントに華を添えました。当日は多くの会員・会員ご家族様から参加いただき、心地よい気候の中でバーベキューや余興を通じて親睦を深める事が出来ました。日頃から当会の事業に多大なるご協力いただいております会員ご家族様へ感謝申し上げます。多数のご参加ありがとうございました。

会員　十六名
会員家族　二十九名　（合計四十五名）
（南　聡史）

◆忘年会

令和元年十一月三十日㈯に酒味の郷いさり火にて忘年会を行いました。当日は多くの会員からご参加いただき、和やかな雰囲気の中で、互いの労をねぎらい合う姿が多数見受けられました。残りの事業もわずかとなる中、より一層の結束を強め、最後まで全足前進で事業を進めていく意味で、有意義な機会になったと思います。ご参加ありがとうございました。

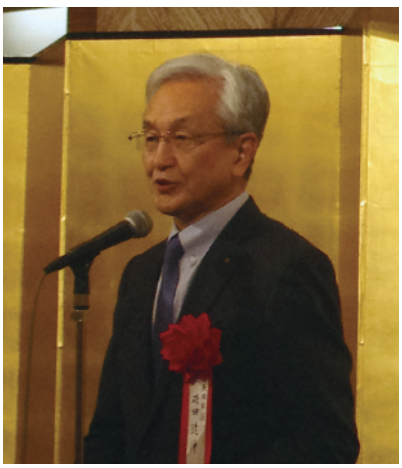
会員　二十九名

（鈴木　敬子）

◆臨時総会・合同新年会

令和二年二月七日㈮にホテルニューオータニ長岡にて臨時総会と合同新年会を行いました。臨時総会では次年度の人事について滞りなく決議され、五十嵐次年度会長より会員減少が進む中で会の存続に向け個々の成長が重要との考えを述べていただきました。

中越鋳物青年研究会との合同新年会では、御来賓や歴代会長の方々を両会会員でおもてなしをし、終始賑やかに談笑するなど、華やかな会となりました。運営に当たり、多大なるご協力を賜りまして



誠にありがとうございました。

臨時総会
出席　二十九名
委任状による出席　四名
（合計三十三名）

合同新年会
御来賓　六名
鉄工青研歴代会長　九名
鉄工青研会員　二十九名
中越鋳物青研歴代会長　一名
中越鋳物青研会員　十二名
（合計五十七名）
（池田　一雄・清水　一裕）

◆定期総会

本年は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い定期総会を中止致します。書面にて決議を行う予定です。

渉外・研修委員会

委員長　阿部　修平

今年度から渉外委員会と研修委員会が統合され、山本会長が掲げた「全足前進」をテーマに、他の団体・グループおよび施設、教育機関と共に事業を行い、それを研修として会員各自が自社に活かせる事を目的として一年間事業を展開いたしました。

五月のセミナーでは教育機関との交流として、長岡大学准教授の栗井英大様と栗井ゼミナールの学生と共に事業を行いました。講師からのセミナーだけではなく、学生からも「長岡版工場の祭典を」というテーマでプレゼンテーションをしていただき、外部から工場内・会社内を見てもらう事の利点について気づくことができました。また、学生達へは会員企業の見学を通じて多くの事を学び、交流する場を提供できたと思います。

九月には新町小学校の「新町ものづくりワークショップ」へ参加し、六枚のステンレスの板を組み合わせて完成する貯金箱の組み立てを通じてものづくりの体験をしていただきました。参加人数が少ないのではと不安でしたが、予想に反して第一部、第二部ともに参加者がほぼ満員という嬉しい結果となりました。参加された子ども達の一生懸命に取り組む姿や満足した笑顔を沢山見ることができ、活動を通じて長岡の未来を担う子ども達に少しでもものづくりの楽しさを伝えられたのではないかと感じました。

十月の研修旅行ではＩｏＴの活用をテーマに、千葉県旭市の㈱ヒラノ様訪問や、茨城県つくば市のサイバーダインスタジオで最新技術のロボットスーツの体験を行ってきました。ＩｏＴという言葉は良く耳にしますが、実際に活用されている現場の姿を見学することで大変実のある研修内容となりました。また、悪天候によるトラブルも多くありましたが、それらを無事に乗り越え、より会員の親睦を深められた二日間だったと思います。

最後になりますが、今年一年を振り返ってみれば計画性の無さで各方面にご迷惑をかけっぱなしだった一年でした。三役・役員・副委員長や会員の皆様のお力添えが無ければ散々な結果となった事でしょう。助けて頂いた皆様へ、感謝の気持ちで一杯です。

一年間、本当にありがとうございました。

◆長岡大学　交流セミナー

令和元年五月三十一日㈮、まちなかキャンパス長岡五〇三会議室にて、学校法人中越学園長岡大学の栗井英大准教授と栗井ゼミナールの学生六名からご講演とプレゼンテーションを賜りました。

外部の人々へ自社のアピールや見学してもらうことにより、どのような効果が得られるのかをご講話いただくと同時に、栗井ゼミナールの学生からも工場見学の体験談などをお話しいただきました。県内でオープンファクトリーを行う地域もあり、講師や学生に質問し、資料をよく読んでいる会員が多かったのが印象的でした。今後も学生達に工場見学をしてもらうなどの連携を図る良いきっかけになったと思います。

最後に、多数の会員の方々より御参加いただきましてありがとうございました。

参加者　交流セミナー　十八名
懇親会　十九名
（田中　祐樹）

◆新町ものづくりワークショップ

令和元年九月二十一日㈯、長岡市立新町小学校で行われたものづくりワークショップに会員十二名で参加し、〝マイ貯金箱を作ろう〟というブース名でステンレスの板に切り込みを入れた板を六枚使用した貯金箱の組み立て加工の体験を行いました。事業は二部構成で、新町小学校の児童約六十名の参加と大変盛況な事業となり、参加した児童達は普段触れる機会の少ない工具等を駆使しての組み立て加工体験に夢中になっていました。

児童たちの呑み込みの早さと好奇心には驚かされ、また怪我もなく終了することができました事は、ひとえに事業にご参加いただきました会員の皆様のおかげと感謝いたします。誠にありがとうございました。

参加者
第一部　新町小学校児童　二十八名
第二部　新町小学校児童　二十六名

長岡鉄工業青年研究会会員　十二名
（長谷川　雅利）

◆研修旅行

今回の企業訪問では、ＩｏＴ等のシステムの導入により〝前進（進化）〟している企業を訪問することにより、当会・自社の発展につなげる事を目的としました。

株式会社ヒラノ様では、工場の見学と海外提携企業を介した３Ｄモデリングサービスの説明を受け、インターネットを使用した遠隔地との打ち合わせや、工場内のカメラと連動した生産管理ソフトにより作業の進捗をどこにいても確認できる環境が整っており、会員達も積極的に質問し、新しい技術の収集に役立ちました。また、サイバーダインスタジオでも最新技術のロボットスーツの体験をし、遠隔操作のできる機器に触れることでＩｏＴの活用について理解を深めることができました。

山中酒造様の蔵見学では、蔵の歴史や酒造りのお話を伺い、建物は築三十余年たっているとは思えないほど綺麗で、整理整頓、清掃清潔が行き届いており、食品である菌を扱う意識の高さを感じました。

今回の研修旅行では、目的である視察先の取り組みを知り自社の強みを再確認すると共に、悪天候によるトラブルを乗り越え会員同士の親睦をより深められたと思います。

最後に御多忙の中、十四名もの方々に参加していただきまして、心より御礼申し上げます。

参加者　十四名
旅行日程　令和元年十月二十五日(金)～二十六日(土)
（田中　祐樹）

実行委員会

委員長　井上　航

今年度は、初の委員長として実行委員長を務めさせていただきました。昨年に実行副委員長を務めましたが委員長と副委員長では緊張感が違い、不安と戸惑いでいっぱいでした。ですが、私自身が大きく成長できるチャンスと考え事業に取り組んでまいりました。

卒業生追い出しゴルフコンペは、年度が替わりすぐの事業のため時間はありませんでしたが、景品やアトラクションを委員会内で話し合い、事前準備を行いました。当日のゴルフは楽しくプレーをすることができ、表彰式ではサプライズ卒業証書授与式を行い、事前準備の甲斐あっての思い出に残る事業を行えたかと思います。

夏季ゴルフコンペでは、同日に複数のゴルフコンペが開催していたにもかかわらず、多くのＯＢ会員にご参加をいただき、例年と異なる懇親会場にて表彰式を行い、ＯＢ会員との親睦を深めることができました。また、ＯＢ会員をおもてなしするマナーを学ぶことができるため、今後も継続していくことが大切だと思います。

三十五年以上継続している屑鉄集めでは多くの企業様から浄財をいただきました。また、当日は優れない天候の中ご協力をいただき、ありがとうございました。悪天候の中の作業だったため、次年度に向けての課題も見つけることができたかと思います。会員数の減少によるトラックの台数減少が懸念されていましたが、集合場所や回収ルートの事前準備によりスムーズに作業を行うことができました。

そして、十二月に福祉・児童養護施設へ屑鉄集めによって得ることが出来た浄財を備品に換えて贈呈してまいりました。初めて贈呈式に参加しましたが、子供達と施設利用者の笑顔に触れ、次年度以降も継続していきたい気持ちが高まりました。

最後に委員長として一年間やり遂げられたのも、山本会長をはじめ、両副会長、門倉副委員長、委員の皆様のご理解・ご協力のお陰です。また、実行委員会の事業にご参加いただいた会員の皆様、誠にありがとうございました。

◆卒業生追い出しゴルフコンペ

平成三十一年四月二十七日㈯に、柏崎カントリークラブにて卒業生追い出しゴルフコンペを開催いたしました。

当日は生憎の空模様となりましたが、卒業生はコンペ三名・表彰式七名と御参加をいただき、現役会員はコンペ十六名・表彰式二十二名と多くの御参加をいただきました。そして、ゴルフ・表彰式を通して卒業生の皆様との最後の事業として大変盛り上がり、いい思い出ができたのではないかと思います。皆様から御協力いただき深く感謝しております。誠にありがとうございました。

参加者　ゴルフ　十九名
　　表彰式　二十九名
優勝者　韮澤　誠吾　君
（門倉　侑大・田原　裕巳・難波　徹）

◆夏季ゴルフコンペ

令和元年七月十三日㈯に、長岡カントリー倶楽部にて夏季ゴルフコンペを開催いたしました。

当日は天候も心配されましたが、事業が進むにつれて晴々とした天候になってまいりました。その中でＯＢ会員様コンペ十四名・表彰式十二名、現役会員コンペ十四名・表彰式十五名と多くの御参加をいただきました。そして、楽しさの中にも緊張感がありゴルフ・表彰式を通してＯＢ会員様と良い親睦が図れたのではないかと思います。皆様から多くの御参加・御協力をいただき感謝しております。誠にありがとうございました。

参加者　ゴルフ　二十八名
　　表彰式　二十七名
優勝者　山口　良和　様
（井上　航・門倉　侑大）

◆屑鉄集め

令和元年九月二日㈪に、会員参加者二十六名、屑鉄提供企業二十九社・一団体にて屑鉄集めを実施いたしました。

会員減少の中、懸念しておりましたトラックにおいては七台もの御協力をいただきました。当日は悪天候にも関わらず多くの方々より御協力いただき、事故・怪我等も無く無事に作業を完了できたことを大変感謝しております。これもひとえに屑鉄集めに対する御理解・御協力を賜った提供企業様、回収作業・トラック提供を行っていただいた会員の皆様のお陰と感じております。誠にありがとうございました。次年度以降の課題として、雨天時の対策を強化してまいりたいと思います。

（讃岐　恭一・古川　琢也）

◆福祉・児童養護施設寄付贈呈式

令和元年十二月十七日㈫に、福祉・児童養護施設に寄付贈呈式を行いました。

柿が丘学園では、子供達と歌やパラシュートやソリで遊び、お礼として色紙を頂きました。また、贈呈品を開封し子供達と一緒に遊び沢山の笑顔を見ることが出来ました。もみの木工房つばさには、

作業用椅子やコンテナを贈呈しました。所長と施設利用者の代表の方からお礼の言葉を頂き、日頃の作業風景を見学させていただきました。双葉寮では、二段ベッドや学習机を贈呈しました。寮長と園児からお礼の言葉をいただき、施設を周りながら子供達の生活状況を説明して下さいました。

子供達や利用者の笑顔を見ることができ、屑鉄集めを継続している意味を改めて認識できました。御協力ありがとうございました。

（井上　航）

まつり委員会

委員長　五十嵐　敏

令和元年八月一日㈭、長岡まつり平和祭慰霊神輿渡御に二十六回目の参加をしてまいりました。山本会長が掲げた活動方針であります「全足前進」を念頭に会員一同が一丸となって、この一大事業を遂行してまいりました。

平成から令和に元号が代わり、新時代の幕開けとなる節目の年を盛大に執り行うべく、本年度は纏の馬簾交換や大うちわの貼り換え等の修繕を行い、神輿渡御を更に華やかにし、当会のアピールをすることが出来ました。また、神輿担ぎ棒の固定金具を製作し、耐久性の向上や、例年掛かっていた着脱時間の短縮を図ることにより、当日準備の効率アップへ繋がりました。

神輿渡御当日は、平日の夜にも関わらず大変多くのＯＢ会員、一般の皆様にご参加いただき総勢百二十二名で大手通を練り歩きました。経験の浅い私がまつり委員長という大役を任され、至らぬ部分が多々あったかと思いますが、一人として怪我人を出すことなく無事に神輿渡御を執り行うことが出来ました。これも偏に運営にご協力いただいた会員の皆様、並びに神輿渡御へご参加・ご助力くださいましたすべての方々のお陰と心より御礼申し上げます。そして本年も大変多くのご協賛・ご祝儀を頂きましたこと、この場をお借りして感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

当会は会員数の減少が危惧されており、今後の活動が不安視されていますが、何十年と受け継いできた事業をこの先も継続し、伝承してまいりますので、変わらぬご協力の程よろしくお願いいたします。

参加者　百二十二名

（会員三十三名、ＯＢ十九名、一般七十名）

2020年度　長岡鉄工業青年研究会組織図

直前会長　山　本　友　紀

会　　長　五十嵐　　敏

副 会 長　大　塚　淳　史
　　井　上　　航

総務委員会　６名（担当副会長　大　塚　淳　史）
- 委 員 長　髙　坂　　壮
- 副委員長　清　水　一　裕
- 委　　員　小笠原　昭　範・小　林　史　幸・小　林　　誠
　　山　口　　淳

渉外・研修委員会　６名（担当副会長　大　塚　淳　史）
- 委 員 長　長谷川　雅　利
- 副委員長　高　坂　　諒
- 委　　員　小　林　厚　揮・清　水　貴　裕・田　中　祐　樹
　　永　井　邦　幸

実行委員会　６名（担当副会長　井　上　　航）
- 委 員 長　門　倉　侑　大
- 副委員長　讃　岐　恭　一
- 委　　員　池　田　一　雄・石　田　和　人・鈴　木　敬　子
　　南　　聡　史

まつり委員会　６名（担当副会長　井　上　　航）
- 委 員 長　真　保　匠　人
- 副委員長　田　原　裕　巳
- 委　　員　猪　俣　洋　志・長谷川　　孝・松　田　勇　介
　　山　崎　宣　明

50周年準備委員会　２名（担当役員　三役で担当）
- 委 員 長　長谷川　　孝
- 副委員長　南　　聡　史

会　　計　阿　部　修　平

会計監査　清　水　貴　裕

祝　ご卒業

小沼　啓　有限会社 小沼
難波　徹　株式会社 難波製作所
韮澤　誠吾　飛鳥運輸 株式会社
福田　敏行　株式会社 キタニ 宮下製造グループ
古川　琢也　古川機工 株式会社
吉原　範宴　ＪＰＣ 株式会社
渡辺　潤一郎　有限会社 渡辺合金鋳造所

（以上七名）

新入会員の紹介

二〇二〇年度　四月以降入会

小林　厚揮
株式会社 シナダ
〒九四〇－〇〇〇二
新潟県長岡市十二潟町
五三四－四五
℡〇二五八－二四－二四三四
FAX〇二五八－二四－五三一七
平成七年三月十一日生

石田　和人
株式会社 難波製作所
〒九四〇－二〇五三
新潟県長岡市福道町字前田八〇四
℡〇二五八－二七－五一六一
FAX〇二五八－二九－二三二六
昭和五十七年十二月八日生